

クライアント 操作マニュアル C00-02 データ定義画面

株式会社NTTデータ NJK

- ・このソフトウェアの著作権は、株式会社 NTT データ NJK にあります。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することは法律で禁止されております。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
- ・このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・このソフトウェアの仕様およびマニュアルに記載されている事項は、将来予告なしに変更することがあります。
- ・このマニュアルで使用している画像には、開発中のもも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

DataNature および DataNature Smart は、株式会社 NTT データ NJK の登録商標です。
その他の商品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

CONTENTS

マニュアルの表記.....	C00-02_0
1.画面について.....	C00-02_1
2.基本操作.....	C00-02_2
2-1 定義から作成する.....	C00-02_2
◆データ定義画面表示.....	C00-02_2
◆基本列の追加.....	C00-02_2
◆加工列の追加.....	C00-02_4
2-2 データファイルを読み込んでから作成する.....	C00-02_6
◆データファイルの読み込み(データ定義画面の表示).....	C00-02_6
◆基本列の調整.....	C00-02_7
◆加工列の追加.....	C00-02_8
2-3 定義完了.....	C00-02_9

マニュアルの表記

◆ 呼称について

本マニュアルでは以下の呼称を使用しています。

DataNature Smart 管理ツール :DN 管理ツール
DataNature Smart クライアント :DN クライアント
DataNature Smart Personal :DN クライアント

◆ 画面に表示されるコマンド名などの文字

コマンド名やダイアログボックス名など、画面上の固有の文字は [] で囲んで表記します。なお、ユーザーによって異なるデータボタンは < > で囲んで表記します。

【例】

[編集]コマンド、[検索]ダイアログボックス
<大阪営業所>データボタン

◆ マニュアルで使用しているアイコン



“注意”を意味します。

知っておくべき重要な事柄や行なってはならない操作など、注意すべきことについて記載されています。



“ポイント”を意味します。

操作や内容のポイントとなる事柄について記載されています。



“参考”を意味します。

知っておくと便利な操作や内容などのノウハウについて記載されています。



“参照”を意味します。

操作や内容に関連するマニュアルの参照ページについて記載されています。

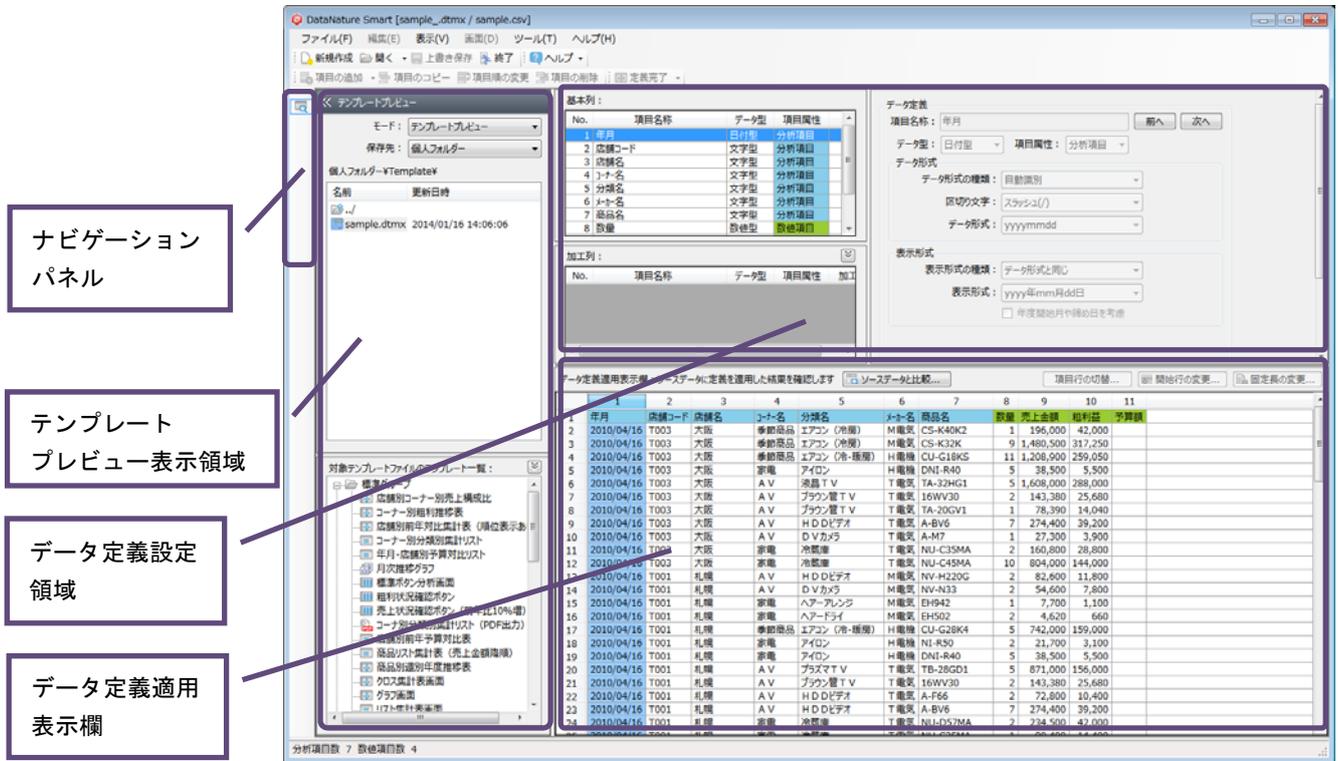
◆ マニュアルで使用している画像について

マニュアルで使用している画像には、開発中のものも含まれます。実際の製品と異なる場合がございますことをご了承ください。

◆ 機能について

導入された製品構成によって、利用できない機能や制限があります。

1. 画面について



データ定義画面は次の要素で構成されています。

■ ナビゲーションパネル

画面操作をサポートする機能アイコンが並んでいます。データ定義画面では、「テンプレートプレビュー」が利用できます。

■ テンプレートプレビュー表示領域

現在使用しているソースデータファイルに、既存のテンプレートファイルを適用した場合にどのような設定になるのかを確認する他、テンプレートファイルを適用することができます。また、テンプレートファイルに登録されているテンプレートを一覧で確認できます。

■ データ定義設定領域

基本列や加工列の各項目のデータ型や項目属性を定義し、それに関連する設定を行います。

■ データ定義適用表示欄

ソースデータに定義を適用した結果を、最大 100 件まで表示します。項目名称欄には、項目属性ごとの色が表示されます。分析項目はブルー、数値項目はグリーン、参照項目はピンク、無効項目はグレーで表示されます。

2. 基本操作

分析対象となるデータファイルの項目列ごとに、その利用目的に応じてデータ型や属性などを定義します。定義から作成する方法と、データファイルを読み込んでから作成する方法があります。

2-1 定義から作成する

分析対象となるデータファイルが無くても、データ型や属性などの定義を作成しておくことができます。基幹システムなどで準備されるデータファイルの項目列に合わせて、定義を準備します。

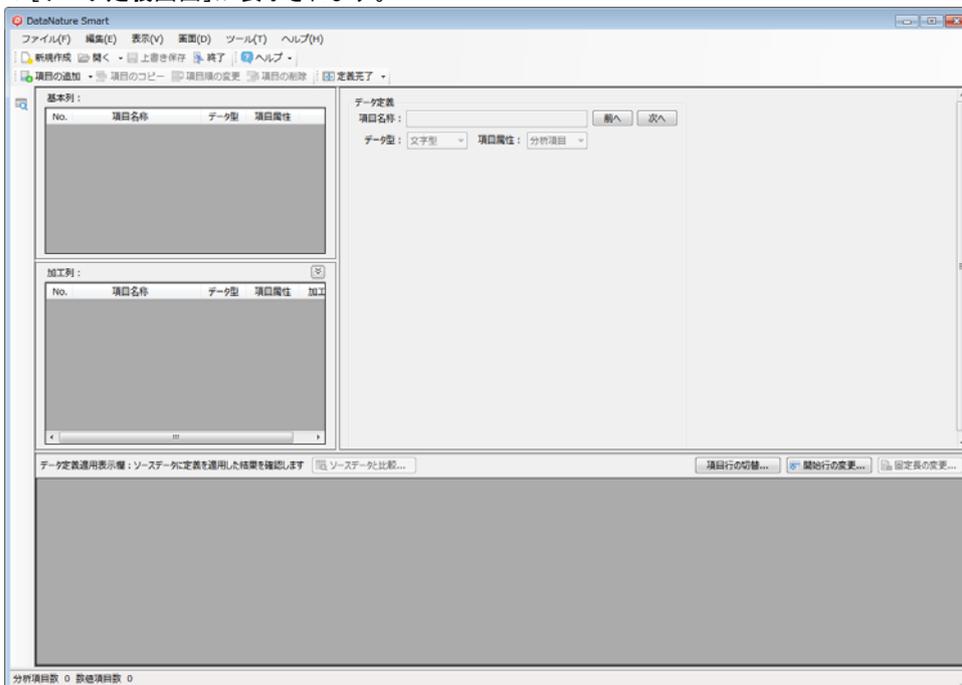
◆ データ定義画面の表示

ようこそ画面から、次の手順でデータ定義画面を表示します。

- 1  ようこそ画面の[空のデータ定義画面を開く]-[データ定義]アイコンをクリックします。

データ定義

▼[データ定義画面]が表示されます。

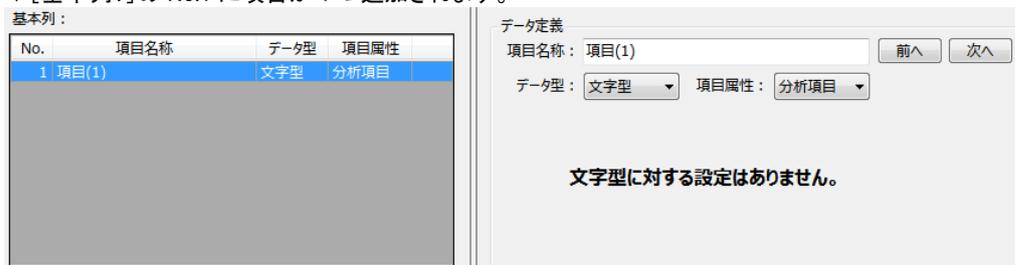


◆ 基本列の追加

ソースデータの項目列内容を基本列として追加し、定義します。

- 1  [項目の追加]アイコンのプルダウンメニューから[基本列]をクリックします。
(メニューバー[編集]-[項目の追加]-[基本列])

▼[基本列:]の No.1 に項目が 1 つ追加されます。



- 2 データ定義設定領域にある[項目名称:]テキストボックスに、項目列名称を入力します。



項目名称は、一意の名称を入力してください。

- 3 続いて、[データ型:]と[項目属性:]を指定します。

データ型は、次の4種類から選択できます。

文字型	文字列データが入る項目に設定する型です。詳細設定はありません。
数値型	数値データが入る項目に設定する型です。有効桁数や単位調整等を指定します。
日付型	日付データが入る項目に設定する型です。データ形式と表示形式を指定します。
時間型	時間データが入る項目に設定する型です。データ形式と表示形式を指定します。

項目属性は、データ型の種類によって設定可能な内容が変わります。

分析項目	日付データや商品名など、集計表の集計キーとなる項目や、ボタン分析画面で検索・分析するためのボタン情報として利用したい項目に設定する属性です。
数値項目	売上金額や伝票番号など、集計や条件の値として利用したい項目に設定する属性です。数値型の場合のみ選択できます。
参照項目	リスト集計表でのみ表示が可能な項目です。分析項目としては利用できません。
無効項目	集計表や分析に不要な項目を無効化します。

▼データ型によって、詳細設定を行う画面が表示されます。

データ型: 項目属性:

データ形式

データ形式の種類:

区切り文字:

データ形式:

表示形式

表示形式の種類:

表示形式:

年度開始月や締め日を考慮

【例】日付型

- 4 手順①～③を繰り返し、必要な項目を追加します。

▼[基本列:]の枠内に項目の一覧が表示されます。

基本列:

No.	項目名称	データ型	項目属性
1	売上日付	日付型	分析項目
2	店舗コード	数値型	分析項目
3	店舗名	文字型	分析項目
4	コーナー名	文字型	分析項目
5	金額	数値型	数値項目
6	数量	数値型	数値項目
7	単価	数値型	参照項目
8	予備項目	文字型	無効項目



項目属性は種類ごとに色が付き、[データ定義適用表示欄:]の項目名称の色と連動します。

分析項目:ブルー
 数値項目:グリーン
 参照項目:ピンク
 無効項目:グレー

◆ 加工列の追加

基本列の項目を加工して、分析に利用できる新たな項目を追加します。

- 1  [項目の追加]アイコンのプルダウンメニュー[加工列]をクリックします。
(メニューバー[編集]-[項目の追加]-[加工列])

▼[加工列の追加]ダイアログボックスが表示されます。

- 2 [項目名称:]テキストボックスに、項目列の名称を入力します。



項目名称は、一意の名称を入力してください。

- 3 続いて、「加工の種類」を指定します。

加工の種類は、次の4種類から選択できます。

ランク	基本列の数値データを対象に、ランク(数値を階級幅で表現したものを)を設定した項目列を作成します。自動設定(一定の数値範囲を指定された分割数で等分割)と範囲設定(任意の数値幅で分割)が選択できます。
計算	基本列の数値データ、日付データ、時間データを対象に計算式を設定し、計算結果の項目列を作成します。
引用	基本列の対象項目列のデータを、指定した条件で分割した項目列を作成します。桁数分割(桁数(バイト数)で文字列を分割)と文字分割(分割する文字を指定しその文字の位置で分割)が選択できます。
結合	基本列の項目列と項目列、または項目列と指定した文字列を結合した項目列を作成します。

▼加工の種類によって、設定を行う画面が切り替わります。

【例】ランク設定



加工の設定後、基本列と同様に[データ型:]と[項目属性:]を指定してください。

- ④ 設定後、[OK]ボタンをクリックすると設定内容が反映されます。
▼[加工列:]の枠内に項目の一覧が表示されます。また、データ定義設定領域に、加工内容と対象列が表示されます。

基本列:				
加工列:				
No.	項目名称	データ型	項目属性	加工列
9	売上年	文字型	分析項目	引用
10	店舗情報	文字型	分析項目	結合
11	価格帯	文字型	分析項目	ランク
12	平均単価	数値型	数値項目	計算

データ定義	
項目名称: 店舗情報	前へ 次へ
データ型: 文字型	項目属性: 分析項目
文字型に対する設定はありません。	
結合	
結合内容(項目名称表示):	編集...
店舗コード+" "+店舗名	



一覧の「加工列」には、加工の種類が表示されます。



データ定義設定領域の[編集]ボタンから加工内容を編集することができます。但し、加工の種類は変更できません。種類を変更する場合は、一度項目を削除してから、再度加工列を追加してください。

- ⑤ 手順①～④を繰り返し、必要な項目を追加します。



定義完了後の手順については、C00-02_9「2-3 定義完了」をご覧ください。

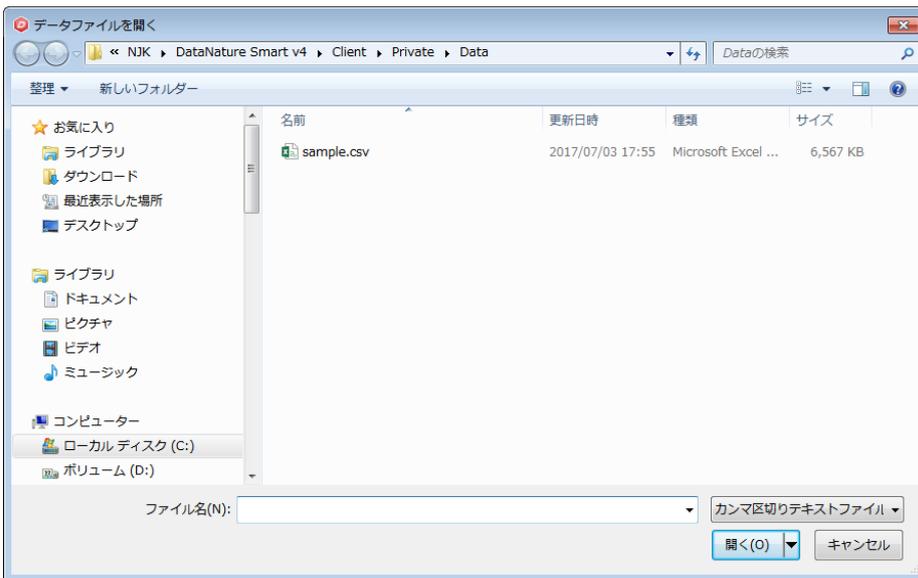
2-2 データファイルを読み込んでから作成する

分析対象となるデータファイルを読み込んで、データ型や属性などを定義します。

◆ データファイルの読み込み(データ定義画面の表示)

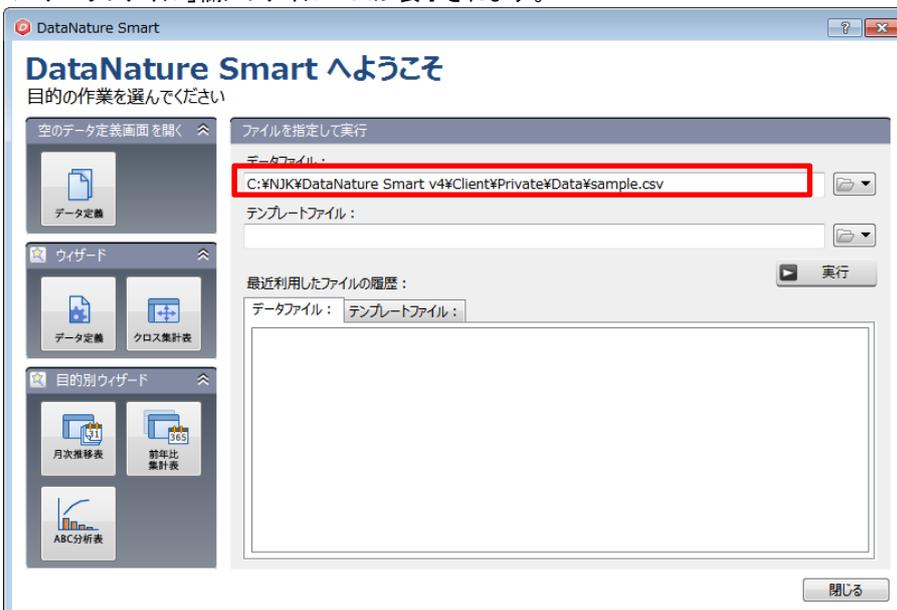
ようこそ画面から、分析対象となるデータファイルを指定し、データ定義画面を表示します。

- 1 ようこそ画面の[ファイル指定して実行]の「データファイル」欄にある[参照]ボタンをクリックし、ファイルの保存先を「DataNature Smart フォルダー」または、「個人フォルダー」から選択します。
▼[データファイルを開く]ダイアログボックスが表示されます。

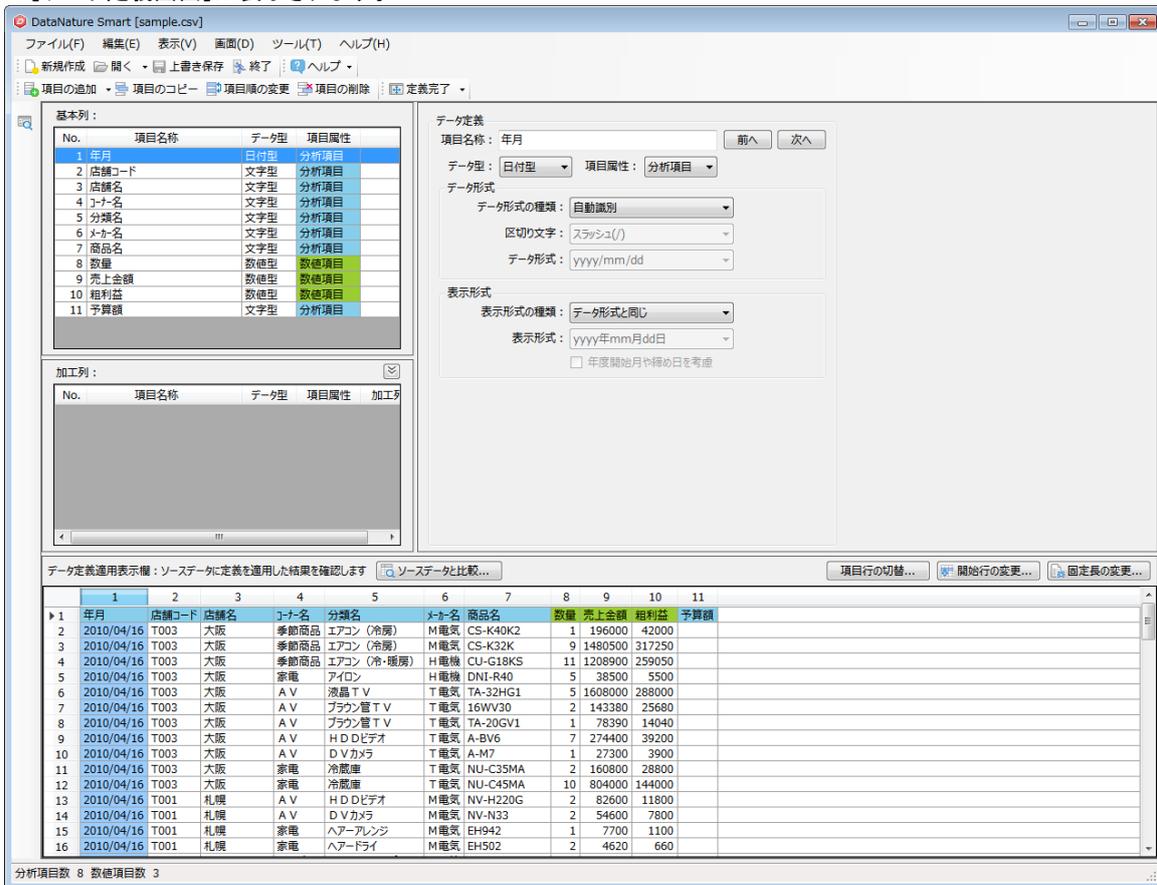


「DataNature Smart フォルダー」は、DataNature Smart の共有フォルダーで、ユーザーが所属するグループごとにアクセス制御されたフォルダーです。スタンドアロンモードで起動、または Personal 版の場合は表示されません。「個人フォルダー」では共有フォルダーを除く任意のフォルダーを指定できます。

- 2 ファイルの保存先、ファイルの種類(拡張子)、ファイル名をそれぞれ指定し、[開く]ボタンをクリックします。
▼「データファイル」欄にファイルパスが表示されます。



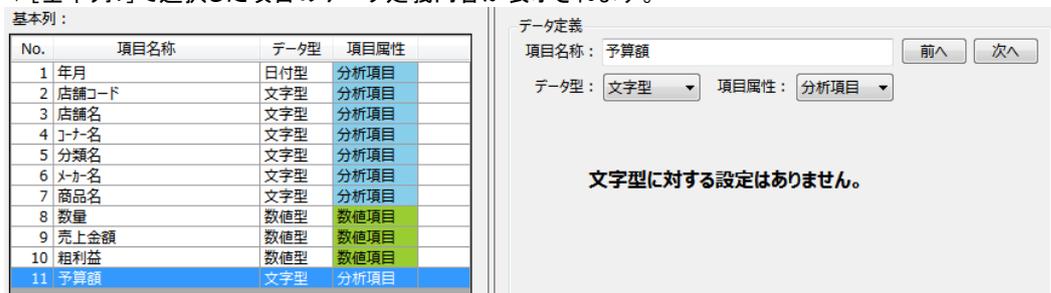
- 3 [実行]ボタンをクリックします。
▼[データ定義画面]が表示されます。



◆ 基本列の調整

ソースデータの項目列の内容が基本列として設定されます。データ型や項目属性などは、ファイル読み込み時に自動判別されますが、その内容を調整することもできます。

- 1 [基本列:]の枠内から、データ型や項目属性を調整したい項目をクリックします。
▼[基本列:]で選択した項目のデータ定義内容が表示されます。



項目名称は、一意の名称にしてください。同じ項目名称が含まれている場合は、<店舗名(2)>のように、自動的に名称に番号を付与して表示されます。

- 2 データ定義設定領域で、[項目名称:] [データ型:] [項目属性:]を調整します。



データ型と項目属性については、C00-02_3「2-1 定義から作成する」の「◆基本列の追加」手順③をご覧ください。

▼データ型によって、詳細設定を行う画面が表示されます。

【例】日付型

データ型: 日付型 項目属性: 分析項目

データ形式

データ形式の種類: 自動識別

区切り文字: スラッシュ(/)

データ形式: yyyy/mm/dd

表示形式

表示形式の種類: データ形式と同じ

表示形式: yyyy年mm月dd日

年度開始月や締め日を考慮

3 手順①～②を繰り返し、データ定義を調整します。

▼[基本列:]の一覧が更新されます。

基本列:

No.	項目名称	データ型	項目属性
1	年月	日付型	分析項目
2	店舗コード	文字型	参照項目
3	店舗名	文字型	分析項目
4	コーナー名	文字型	分析項目
5	分類名	文字型	分析項目
6	メーカー名	文字型	分析項目
7	商品名	文字型	分析項目
8	数量	数値型	数値項目
9	売上金額	数値型	数値項目
10	粗利益	数値型	数値項目
11	予算額	数値型	数値項目



調整した設定内容に連動して、[データ定義適用表示欄:]の該当する項目列のデータ内容が切り替わります。設定内容が正しいことを確認してください。



定義完了後の手順については、C00-02_9「2-3 定義完了」をご覧ください。

◆ 加工列の追加

ソースデータの項目を加工して、分析に利用できる新たな項目を追加します。

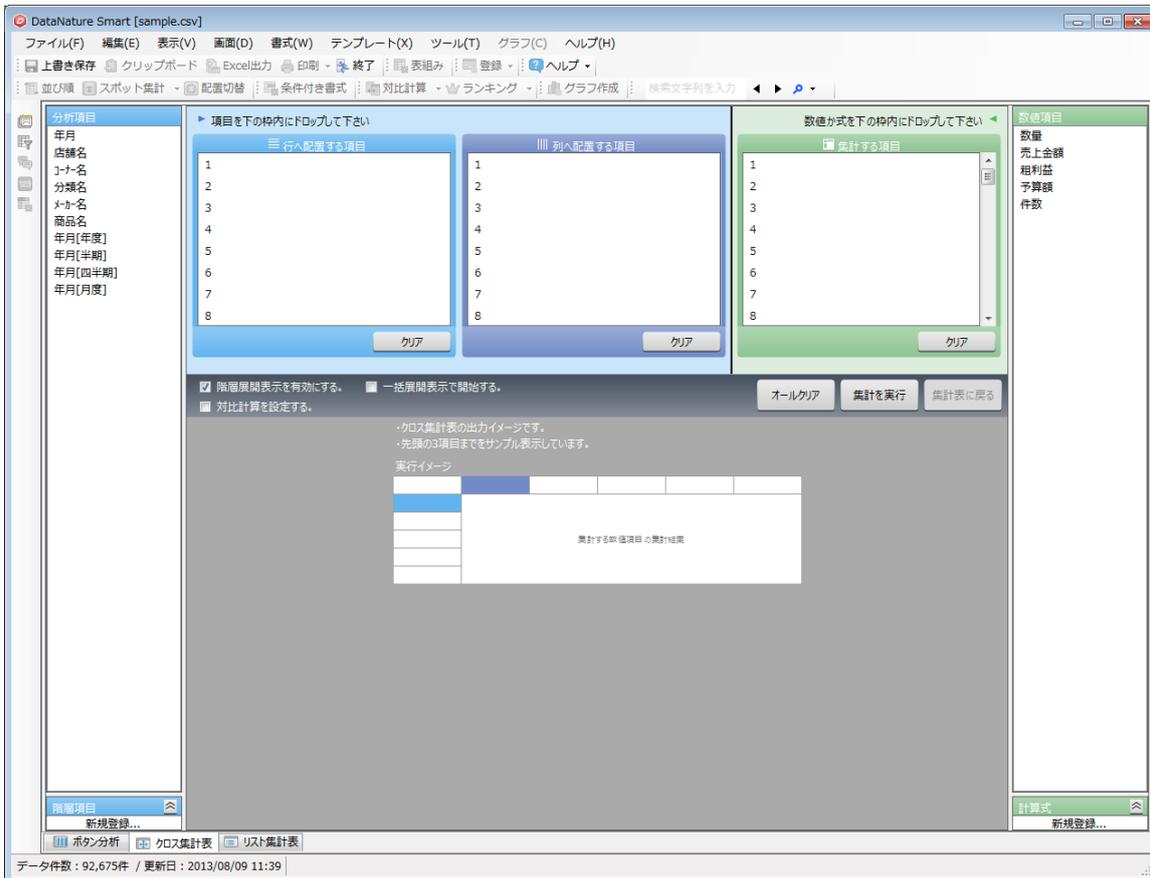


加工列の追加手順については、C00-02_4「2-1 定義から作成する」の「◆加工列の追加」をご覧ください。

2-3 定義完了

必要な定義が完了したら、目的の作業に合わせて次の画面を選択します。

- 1  [定義完了]アイコンをクリックします。
(メニューバー[画面]-[(目的の画面名称)])
▼クロス集計表[表組み画面]が表示されます。



初期設定では、クロス集計が既定の分析フォームとなっています。[定義完了]アイコンのプルダウンメニューからボタン分析やリスト集計も選択できます。なお、[定義完了]アイコンクリック時に表示される既定の分析フォームについては、[ツール]-[DataNature Smart のオプション]にある[基本設定]から変更可能です。



各画面の操作方法については、操作マニュアルやヘルプを参照ください。



[定義完了]アイコンをクリック後、日付項目の表示形式を変更するには、ボタン分析画面で対象の日付項目列で右クリックし、表示されるコンテキストメニューから[表示形式の設定]-[この日付列]を選択します。次に表示される[日付型の表示形式]ダイアログボックスで設定を変更します。